

原 著

母親の子育て不安の程度と母親クラブ活動との 関連性に関する考察

八重樫 牧 子^{*1}

要 約

都市化や核家族化及び少子化の進展に伴う家庭の孤立化や家庭や地域の養育機能が低下している。母親の子育て不安や子育て負担を軽減するためには、家庭においては父親の子育て参加が必須条件となる。また、地域においては積極的な子育て支援や子育て支援のためのネットワークづくりが求められている。

そこで本研究では、地域の子育てグループの一つである母親クラブに参加している母親を対象に調査を行い、母親クラブの活動状況と子育て不安の関連について検討を行った。その結果、母親クラブの課題として以下のことが明らかになった。①子どもの子育て不安の内容は、子どもの年齢によって異なることから、子どもの年齢に対応した母親クラブの活動を展開すること、②近所の人や友人とのつきあいのある母親そして子育てグループに参加している母親ほど子育て不安が低いことから、母親クラブ活動を通して子育てネットワークを拡大していくこと、③子育て不安の軽減には夫の子育て参加や精神的支えが必要なので、父親が母親クラブに参加できる機会を増やすこと、④母親クラブに満足している母親ほど子育て不安が低いことから、子育てを軽減するための母親クラブの活動内容を工夫することが指摘できた。

はじめに

子育てとは、本来、種の保存という人間生活の根源をかたちづくるものである¹⁾。これまで、民族や時代を問わず、どのような社会にあっても、家族や近隣の人々のなかで受継がれた知識を活用して、日常のなかで自然にだれもが行ってきたものである¹⁾。

しかし、近年の社会・産業構造の変化により、核家族化や少子化が進み、近隣とのつながりが希薄になってきている。そうした中で、子育ての知恵を受継ぐことが困難になってきている。その結果、小さい子どもとの接触体験が乏しいまま親になる男女が増えてきている。不十分な経験や知識しかもたない状態で、初めて子育てをしなければならない母親や父親が不安を覚えるのは当然である。

特に、戦後の高度成長期を通じて、都市化、核家族化が進行し、子育て状況は大きく変化した。母親同士が子育ての情報を交換したり、助け合う機会が少なくなった。また、母親は一人で子育てに専念することが一般化した。その結果、子育ての責任が母

親に集中し、育児不安を訴える母親や育児ノイローゼに陥る母親が増えてきているといわれている²⁾。母親が子育てに不安やストレスを感じながら子どもに接することは、子どもの心身の発達に好ましくない。さらに母親が児童虐待にいたるといふ事態もある²⁾。

このような母親の子育て負担・子育て不安を軽減するには、父親が子育てに参加することが必要である。また、できる限り多くの人の子育てに係わることが必要となる。そこで地域に積極的な子育て支援や親同士の子育て支援ネットワークをつくることが求められる²⁾。

これまで、育児不安に関する一連の研究を行った牧野³⁻⁸⁾は、育児不安とは「育児行為のなかで一時的あるいは瞬間的に生ずる疑問や心配ではなく、持続し蓄積された不安」⁴⁾であると定義している。牧野⁶⁾、⁷⁾は、乳幼児を持つ母親がイライラしたり育児意欲を低下させることなく、子どもに良い態度で接することの必要性を認めている。そのためには社会的学習の場に参加したり、何か仕事をもっている

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科
(連絡先)八重樫 牧子〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

ことが、重要であることを明らかにした。

服部ら⁹⁾は、子どもを囲む環境と乳幼児の心身の発達を0歳から6歳まで追跡調査し、子育ての中心的問題の一つが母親の育児不安であることを指摘した。その育児不安をもたらす要因として、①母親が子どもの欲求がわからないこと、②母親の具体的心配ごとが多いこと、及びその未解決放置、③母親に出産以前の子どもの接触経験や育児経験が不足していること、④夫の育児への参加や協力が得られないこと、⑤近所に母親の話し相手がいないことをあげている。

また、佐々木ら¹⁰⁾は、横浜市の乳幼児を持つ母親を対象とする調査から、働いている母親より専業主婦の方が子育てに苦痛を感じやすく、不安に陥りやすいこと明らかにした。さらに育児不安に陥りやすい人は夫を含めた人間関係の中で一種の孤立感がある人であると指摘した。

育児不安について1993年から継続的にプロジェクト研究をすすめている川井ら¹¹⁻¹⁷⁾は、育児不安に関する29項目について因子分析を適用し、育児困難感因子と不安・抑うつ感因子を抽出した。さらに育児不安を育児困難感タイプと不安・抑うつ感タイプに分け、育児不安の相違を考慮しつつ育児相談や保健指導への対応が重要であると指摘した。

これらの育児不安に関する研究は、いずれも乳幼児をもつ母親の育児不安について検討および考察である。しかし、小学生や中学生をもつ母親の子育て不安については触れられていない。

そこで本研究は、子育て支援グループの一つである母親クラブを取り上げ、乳幼児、小学生、中学生を持つ母親の子育て不安の実態を明らかにすることを目的とした。また、母親の子育て不安の程度が、子育て環境、子育て観、そして母親クラブの活動効果とどのように関連しているか考察を行った。

研究方法

1. 調査対象と調査方法

平成13年4月中旬から5月初旬にかけて、K市の5つの児童館・児童センターを拠点に活動を行っている母親クラブの会員631人を対象に留置き法による調査を実施した。調査内容については別稿¹⁸⁾で述べたので省略する。回収率は74.3%(469人)、有効回答率は63.7%(402人)であった。

2. 分析方法

子育て不安を検討するために、川井ら¹²⁾による29の子育て不安項目の選択肢について「よくある」に3点、「時々ある」に2点に、「あまりない」に1

点、「全くない」に0点を付与し、各項目の平均値を求め、子育て不安得点を算出した。ただし、逆転項目については得点を修正し、Rを付与した。

母親の子育て不安の構成要素を明確にするために、第1子が0～6歳(乳幼児)の母親93人、第1子が7～12歳(小学生)の母親154人、第1子が13～18歳(中・高校生)の母親71人の3群に分け、各群の29の子育て不安項目について因子分析(主因子法:バリマック回転)を行い、因子の比較検討を行った。

いずれかの子育て不安項目に答えていなかった32人を除いた370人について、子育て不安得点を加算して合計を求めた。その合計得点から子育て不安の低い群(平均値-1標準偏差)・中間群・高い群(平均値+1標準偏差)の3群に分けた。この3群の子育て不安程度と子育て環境や子育て観及び母親クラブの活動効果に関する項目についてクロス集計表を作成し、カイ2乗検定を行うことにより関連性を検討した。

研究結果

調査対象、子育て環境、子育て観、母親クラブの活動状況、母親クラブの活動効果については別稿¹⁸⁾で述べたので省略する。

1. 子育て不安得点の比較

子育て不安得点合計の最大値は109点、最小値は37点、平均値は67.9点、標準偏差は10.3点で正規分布していた。29の子育て不安項目の妥当性を判定するために、子育て不安3群(高・中・低群)と29の子育て不安項目のクロス集計を作成しカイ2乗検定を行った。その結果、「(13)私の生きがいは子育てとは別である」という項目以外は、すべて1%以下の危険率で有意差が認められ、子育て不安尺度として妥当であることが認められた。13の項目は子育て不安というよりは、子育て観をたずねているものであり、子育て不安項目としては、適切ではないと考える。しかし、29項目を使用して育児不安の構成要素を検討した先行研究¹¹⁻¹⁷⁾と、本調査結果から得た子育て不安構成要素を比較検討するために29の全項目を使用した。

図1は、各項目の平均不安得点を示したものである。

平均不安得点の最も高かった項目は「(2)子育てについていろいろ心配なことがある」(1.88点)であった。次いで「(27)イライラすることがある」(1.79点)であった。不安得点の最も低かった項目は「(3R)子どもといっしょにいると楽しい」(0.38点)である。次いで「(17R)とても幸せな気分ですごしてい

る」(0.81点),「(24R)人づき合いが好きな方である」(0.94点),「(26)いてもたってもいられないほど落ち着かないことがある」(0.95点)であった。子育て不安得点の最も高かった項目「(2)子育てについていろいろ心配なことがある」と答えた母親は75.8%を占めていた。反対に最も不安得点の低かった項目「(3R)子どもといっしょにいると楽しい」と答えた母親は97.0%と高い数値を示していた。

2. 子育て不安の構成要素

子育て不安の構成要素については、第1子の年齢0～6歳以下の乳幼児群、7～12歳の小学生群、13～18歳の中・高校生群に分け、子育て不安項目の因子分析を行い、回転はバリマック回転法を用いた。固有値が1.000以上の因子を抽出した結果は、乳幼児群では表1、小学生群では表2、中・高校生群は表3に示した。なお因子は第3因子まで取り上げ検討した。

乳幼児群では8因子が抽出された。表1に示したように、8項目より構成された第1因子は不安・抑うつ感因子、5項目より構成された第2因子は子育て負担感因子、そして4項目より構成された第3因子は身体的ストレス・非社会性因子と命名した。

小学生群についても8因子が抽出された。表2に示したように、第1因子は子育て困難感因子(6項目)、第2因子は子育て負担感因子(7項目)、そして第3因子は不安・抑うつ感因子(4項目)と命名した。

中・高校生群では9因子が抽出された。表3に示したように第1因子は子育て困難感因子(7項目)、

第2因子は身体的・心理的ストレス因子(6項目)、第3因子は子育て負担感因子(4項目)と命名した。

因子分析の結果から、年齢によって子育て不安の構成要素に違いが認められた。

3. 子育て不安と母親クラブ活動等の関連性

子育て不安の高い群・中間群・低い群の3群と、母親の属性、子育て環境、子育て観、及び母親クラブ活動効果との関係をクロス表及びカイ2乗検定を行うことによって、両者の関連性を検討した結果は以下に示す。

3-1 母親の属性と子育て不安(表4)

母親の年齢、子どもの年齢、子どもの人数及び母親の就労形態と子育て不安との程度との関連は認められなかった。また、家族形態、住居形態と子育て不安との関連もなかった。しかし、居住年数が長くなると子育て不安が低くなっており、表4に示すように5%以下の危険率で有意差が認められた。また、近くに親族のいる人の方が子育て不安が低くなると予測していたが、近くに親族のいない人の方がかえって子育て不安が低くなっており、1%以下の危険率で有意差が認められた。

3-2 子育て環境と子育て不安(表5)

近所づきあいを頻繁にしている母親ほど子育て不安が低くなっており、表5に示すように、0.1%以下の危険率で有意差が認められた。また友人とのつきあいを頻繁にしている母親ほど子育て不安が低くなっており、1%以下の危険率で有意差が認められた。

子育て不安と父親の子育て参加との間には統計的

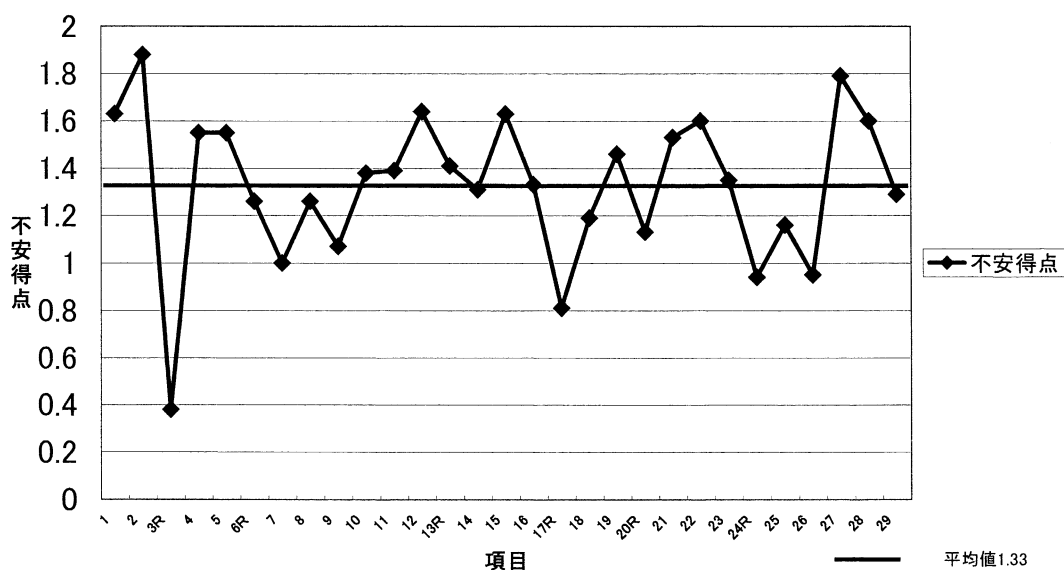


図1 子育て不安得点

表1 子育て不安項目の因子分析結果(0~6歳児の母親クラブの会員)

因子 No.	1	2	3
固有値	4.162	3.161	3.030
寄与率(%)	14.353	10.901	10.447
累積寄与率(%)	14.353	25.254	35.700
因子軸名	不安・抑うつ感	子育て負担感	身体的ストレス・非社会性
21 何事も敏感に感じすぎてしまう方だと思う	0.739	0.130	0.328
20R 楽天的でよくよ考えない方だと思う	0.724	0.215	-0.060
22 とても心配性であれこれ気に病むことがある	0.721	0.083	0.367
25 不安や恐怖におそわれることがある	0.629	0.145	0.229
18 何となく言えず淋しい気持ちにおそわれることがある	0.564	0.341	0.029
26 いてもたってもいられないほど落ちつかないことがある	0.533	0.071	0.291
19 気が滅入ることがある	0.530	0.217	0.162
16 何かというと子どものことに目がいってしまい気疲れする	0.469	0.317	0.289
9 子どもを育てることが負担に感じられる	0.156	0.789	0.138
8 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う	0.201	0.781	0.086
7 私ひとりで子どもを育てているとだと思ふ	0.153	0.741	0.234
10 自分のやりたいことができなくてあせる	0.31	0.492	0.239
14 子どもを虐待しているのではないかと思う	0.165	0.426	-0.058
28 ひどく疲れやすいと思う	0.121	0.203	0.810
29 身体の調子が悪いと思う	0.267	0.235	0.737
23 人とつきあうよりも一人で何かをしている方が好きである	0.163	0.028	0.678
24R 人づき合いが好きな方である	0.313	-0.095	0.632

n=93人 Rは逆転項目

表2 子育て不安項目の因子分析結果(7~12歳の母親クラブの会員)

因子 No.	1	2	3
固有値	3.318	3.091	2.612
寄与率(%)	11.442	10.660	9.006
累積寄与率(%)	11.442	22.101	31.107
因子軸名	子育て困難感	子育て負担感	不安・抑うつ感
2 子育てについていろいろ心配なことがある	0.802	0.042	0.134
1 何となく子育てに自信がもてないように思う	0.725	0.078	0.226
5 子どものことでどうしてよいかわからなくなることがある	0.716	0.160	0.242
11 母親として不適格だと思う	0.694	0.292	0.150
6R 子どもをうまく育てていると思う	0.635	0.144	-0.092
8 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う	0.177	0.782	0.241
9 子どもを育てることが負担に感じられる	0.134	0.768	0.158
3R 子どもといっしょにいると楽しい	0.133	0.629	0.031
7 私ひとりで子どもを育てているとだと思ふ	0.023	0.543	0.395
10 自分のやりたいことができなくてあせる	0.161	0.531	0.133
17R とても幸せな気分ですごくしている	0.116	0.494	-0.082
4 子どものことがわずらわしくてイライラする	0.433	0.463	-0.081
18 何となく言えず淋しい気持ちにおそわれることがある	0.109	0.035	0.791
25 不安や恐怖におそわれることがある	0.203	0.194	0.734
26 いてもたってもいられないほど落ちつかないことがある	0.146	0.333	0.593
19 気が滅入ることがある	0.082	0.082	0.557

n=154人 Rは逆転項目

表3 子育て不安項目の因子分析結果(13~18歳の母親クラブの会員)

因子 No.	1	2	3
固有値	3.999	3.373	2.486
寄与率(%)	13.790	11.630	8.573
累積寄与率(%)	13.79	25.420	33.994
因子軸名	子育て困難感	身体的・心理的 ストレス	子育て負担感
6R 子どもをうまく育てていると思う	0.780	0.175	0.030
2 子育てについていろいろ心配なことがある	0.772	0.172	-0.036
11 母親として不適格だと思う	0.704	-0.203	0.274
1 何となく子育てに自信がもてないように思う	0.701	0.348	-0.023
4 子どものことがわずらわしくてイライラする	0.658	0.291	0.305
27 イライラすることがある	0.574	0.459	0.092
5 子どものことでどうしてよいかわからなくなることがある	0.497	0.352	-0.029
28 ひどく疲れやすいと思う	0.160	0.807	-0.027
29 身体の調子が悪いと思う	0.079	0.799	0.040
12 育児ノイローゼに共感できる	0.250	0.668	0.099
19 気が滅入ることがある	0.290	0.541	0.072
18 何となく言えず淋しい気持ちにおそわれることがある	0.174	0.521	0.178
9 子どもを育てることが負担に感じられる	0.159	0.125	0.832
10 自分のやりたいことができなくてあせる	0.253	0.062	0.746
8 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う	-0.050	0.166	0.698
7 私ひとりで子どもを育てているとだと思ふ	-0.150	0.125	0.472

n=71人 Rは逆転項目

表4 母親クラブの母親の属性と子育て不安の関連

	カイ2乗値	自由度	漸近有意確率	有意差
母親の年齢	3.194	6	0.784	ns
子どもの年齢	15.162	8	0.056	ns
子どもの人数	8.223	10	0.607	ns
家族の人数	27.448	18	0.071	ns
母親の就労形態	4.650	10	0.913	ns
家族形態	8.528	14	0.860	ns
住居形態	0.802	4	0.938	ns
居住年数	24.406	12	0.018	*
近隣の親族の有無	12.226	2	0.002	**

** P<0.01で有意差あり, * P<0.05で有意差あり, ns有意差なし

表5 母親クラブの母親の子育て環境と子育て不安の関連

	カイ2乗値	自由度	漸近有意確率	有意差
近所とのつきあい	30.697	8	0.000	***
友人とのつきあい	20.242	8	0.009	**
夫の子育て参加	14.07	8	0.080	ns
夫の精神的支え	21.705	8	0.005	**
相談相手				
夫	7.345	2	0.025	*
自分の父母	4.793	2	0.091	ns
夫の父母	5.612	2	0.060	ns
自分のきょうだい	2.160	2	0.340	ns
夫のきょうだい	3.484	2	0.175	ns
近所の人・知人	0.797	2	0.671	ns
友人	5.689	2	0.058	ns
専門機関	0.623	2	0.733	ns
かかりつけの医者	1.457	2	0.483	ns
保育園・学校等の先生	5.611	2	0.060	ns
いない	2.268	2	0.322	ns
情報源				
夫	6.205	2	0.045	*
自分の父母	10.953	2	0.004	**
夫の父母	6.121	2	0.047	*
自分のきょうだい	2.221	2	0.329	ns
夫のきょうだい	2.965	2	0.227	ns
近所の人・知人	1.695	2	0.428	ns
友人	3.294	2	0.195	ns
専門機関	2.842	2	0.241	ns
かかりつけの医者	1.063	2	0.588	ns
保育園・学校等の先生	4.355	2	0.113	ns
育児書	0.261	2	0.878	ns
テレビ等	0.336	2	0.846	ns
子育てサークル・グループの参加	20.069	10	0.029	*

*** P<0.001で有意差あり, ** P<0.01で有意差あり, * P<0.05で有意差あり, ns有意差なし

に有意な差は認められなかった。しかし、夫の精神的支えがあるほど、子育て不安は低くなっており、1%以下の危険率で有意差があることがわかった。

子育ての相談相手として夫をあげている母親の子育て不安も低くなっており、5%以下の危険率で有意差が認められた。しかし、他の相談相手との関連はみられなかった。また、子育ての相談相手がいない母親は子育て不安が高くなると予測していたが、

関連はみられなかった。

子育ての知識・情報源との関連性については、自分の父母や夫の父母をあげている母親は子育て不安が低くなっていた。前者は1%以下の危険率で、後者は5%以下の危険率で有意差が認められた。

子育てサークル・グループの参加状況との関連性については、参加サークル・グループが多いほど子育て不安が低くなっており、5%水準の危険率で有

表6 母親クラブの母親の子育て観と子育て不安の関連

	カイ2乗値	自由度	漸近有意確率	有意差
3歳児神話の考え方	7.133	6	0.309	ns
性別役割分業意識	17.114	6	0.009	**
子育てに対する夫婦協働意識	6.244	6	0.396	ns

** P<0.01で有意差あり, ns有意差なし

表7 母親クラブ活動効果と子育て不安の関連

	カイ2乗値	自由度	漸近有意確率	有意差
母親クラブの入会期間	10.485	8	0.233	ns
行事の出席回数	12.367	10	0.261	ns
母親クラブ内での会員の交流	9.067	8	0.337	ns
母親クラブ内での親しい友人の有無	20.576	8	0.008	**
母親クラブへの父親参加	10.969	8	0.203	ns
母親クラブの役員経験	5.570	4	0.234	ns
母親クラブの役員をひきうけてもよい	6.328	6	0.387	ns
母親クラブに対する満足度	24.321	8	0.002	**
子どもへの母親クラブの効果				
子ども同士で遊べる	11.604	8	0.170	ns
家で体験できないことができる	8.092	8	0.425	ns
子どもの友達ができる	19.893	8	0.011	*
楽しい時間を過ごせる	10.667	8	0.221	ns
母親への母親クラブの効果				
子育て仲間・友人ができる	13.128	8	0.108	ns
子育て情報が増える	7.838	8	0.449	ns
子育ての悩みなど相談できる	11.877	8	0.157	ns
子育ての不安が軽減できる	10.752	8	0.216	ns
子育てのストレスが解消される	13.420	8	0.098	ns
子どもとの関わり方・遊び方がわかる	18.812	8	0.016	*
ゆとりをもって子育てができる	19.321	8	0.013	*
楽しい時間を過ごすことができる	7.536	8	0.480	ns
ボランティアとして充実感を感じる	19.86	8	0.011	*
父親への母親クラブの効果				
子育て仲間・友人ができる	10.896	8	0.208	ns
子どもの面倒をよくみるようになる	9.196	8	0.326	ns
子育てに関心をもつようになる	8.922	8	0.349	ns
子どもの母親の相談にのるようになる	6.681	8	0.571	ns
母親クラブの活動に協力的になる	11.064	8	0.198	ns
地域への母親クラブの効果				
地域の人が子どもに声をかけてくれる	11.306	8	0.185	ns
地域の子どもに声をかける	16.582	8	0.035	*
会員以外の母親にも声をかけるようになる	17.302	8	0.027	*
地域でのつきあいが活発になる	13.697	8	0.090	ns

** P<0.01で有意差あり, * P<0.05で有意差あり, ns有意差なし

意差あることがわかった。

3-3 子育て観と子育て不安(表6)

三歳児神話の考え方や子育て協働意識と子育て不安との関連は認められなかった。性別役割分業意識については、同感しない人ほど子育て不安が低くなると予測していたが、逆に同感している人ほど子育て不安が低く、1%以下の危険率で有意差が認められた。

3-4 母親クラブ活動と子育て不安(表7)

母親クラブの行事に頻繁に出席し、また母親クラブ入会期間が長いほど子育て不安が軽減されると予測したが、出席頻度と子育て不安との関連はみられなかった。しかし、母親クラブの中に親しい友人がたくさんいるほど、子育て不安は低くなっており、1%以下の危険率で有意差が認められた。また、母親クラブ活動に満足しているほど子育て不安が低く、

1%以下の危険率で有意差があることがわかった。

母親クラブ活動を行うことによって「子どもの友達が增える」と評価している母親は子育て不安が低くなっており、5%以下の危険率で有意差が認められた。しかし、子どもへの母親クラブへの効果に関する他の項目との関連は認められなかった。

母親自身にとって「子どもの関わり方・遊び方がわかる」、「ゆとりをもって子育てができる」、「ボランティアとして充実感を感じる」と評価している母親は子育て不安が低くなっており、いずれも5%以下の危険率で有意差が認められた。

母親クラブが父親に与える効果に関する全ての項目と子育て不安との関連は認められなかった。

地域とのかかわりと子育て不安との関連については「地域の子どもの声をかける」及び「会員以外の子どもの母親にも声をかけるようになる」と評価している母親の子育て不安が低くなっており、5%以下の危険率で有意差が認められた。

考 察

1. 母親クラブの母親の子育て不安得点

「子育てについていろいろ心配なことがある」と答えている母親が75.8%と多くなっていた。しかし、一方で97.0%とほとんどの母親が「子どもと一緒にいると楽しい」と答えていた。

川井ら¹⁵⁾の調査では、「子育てについていろいろ心配なことがある」と答えていた母親は、3歳未満の子どもを持つ母親は51.6%、3～6歳児を持つ母親は52.6%と約半数を占めていたと指摘している。本調査でも同様のことが指摘しうる。

また、子ども未来財団の行った「子育てに関する意識調査」¹⁹⁾によると、実際に子どもを持っている両親の9割以上が「子どもが生まれてよかったと思う」「子どもが本当にかわいいと思う」と肯定的に答えていた。その一方で「子どもがいうことを聞かないときなどに憎たらしく思う」及び「思わず子どもに手をあげたくなる」と答えた女性が約7割、男性が約6割を示した。これらの結果は、子育ては非常な喜びであると同時に、多くの人が子育てに伴う焦燥感を少なからず有していると指摘している。

本調査の結果と併せて検討すると、ほとんどの母親が子どもと一緒にいると楽しいと肯定的に思っているにもかかわらず、一方で子育てについて心配や不安を抱いており、子育てについては反対感情を持っていることが明らかになった。子育て不安の相談にあたっては、反対感情を十分に考慮しなければならぬことが指摘しうる。

2. 母親クラブの母親の子育て不安の構成要素

年齢別に子育て不安を因子分析した結果、乳幼児群や小学生群及び中・高校生群の因子に違いがみられた。乳幼児群の第1因子が不安・抑うつ感因子であるのに対し、小学生群と中高校生群の第1因子は子育て困難感因子であった。また、乳幼児群と小学生群の第2因子が子育て負担感因子であるのに対し、中・高校生群では、身体的・心理的ストレスであった。

3歳児未満の子どもを持つ母親を対象にした川井ら¹⁴⁾の育児不安に関する研究では、第1因子として不安・抑うつ感因子、第2因子として育児困難感因子が抽出されていた。第1因子の項目は(22)、(21)、(20R)、(25)、(19)、(26)、(18)の7項目であった。本調査の乳幼児群の第1因子である不安・抑うつ感因子は、これらの7項目に(16)の項目を加えた8項目が抽出された。本調査結果は川井ら¹⁴⁾の結果と同様である。このことから子育て不安に関しては比較可能性が高い。

また、3歳以上の幼児を持つ母親を対象に行った川井ら¹⁵⁾の同様の研究では、先の3歳児未満の研究と比較すると第1因子が逆転し、幼児期では、育児困難感因子が最大の構成要因になっており、乳児・幼児初期より育児に困難感を有していることを明らかにしていた。第1因子の育児困難感因子の項目は(1)、(5)、(11)、(2)、(6R)、(14)、(27)、(4)の8項目である。本調査の小学校群の第1因子である子育て困難感因子の項目は(2)、(1)、(5)、(11)、(6R)の5項目と項目が少ないが、同じ項目が抽出されていた。また、中・高校生群の第1因子である子育て困難感因子は(6R)、(2)、(11)、(1)、(4)、(27)、(5)の7項目よりなり、(14)項目は存在しなかった。本調査結果はほぼ川井ら¹⁵⁾の研究と同様の項目が抽出された。

本調査においては、乳幼児期では子育て困難感因子は第4因子として抽出された。そして小学校群と中・高校生群の第1因子が子育て困難感因子であり、後者の方が子育て困難感に関する項目が多かった。これは子どもの年齢が高くなるにつれて、反抗期の問題も含めて子育て困難感が増すと推察しうる。このことは、小学校群の第2因子が子育て負担感であるのに対し、中・高校生群では第2因子が身体的・心理的ストレス因子であることから、子どもが成長するにしたがって心身ともに疲れが蓄積されることが推測できる。子どもが0歳から6歳になるまで追跡調査を行った服部ら⁹⁾の調査でも、子育てにおける不安は乳児期には身体面に重点がおかれているが、子どもの成長とともに行動や性格、対人関係のもち方等、精神面へと重点が変化することを指摘し

ている。しかも子育て不安は子どもの成長とともに増大することを強調している。

3. 子育て不安と母親クラブ活動等の関連性

3-1 子育て環境と子育て不安

牧野⁴⁾の調査と同様、本調査においても母親の年齢、子どもの年齢、子どもの人数及び母親の就労形態と子育て不安の程度との関連性は認められなかった。

「平成9年度国民生活選好度調査」²⁰⁾によると、「育児の自信がなくなる」、「自分のことができなくてあせる」、「なんとなくイライラする」という育児不安について専業主婦と有職者を比較したところ、いずれの項目も「よくある」と答えた母親の割合は専業主婦の方が高くなっていった。また、佐々木ら¹⁰⁾も働いている母親より専業主婦の方が子育てに苦痛を感じやすく、不安に陥りやすいと指摘した。しかし、本調査では、母親の就労形態と子育て不安との関連性は認められなかった。本調査では、専業主婦が59.5%であるのに対し、非常勤の母親が24.1%、常勤の母親が8.0%であった。本調査は常勤の母親が低率であったため、佐々木ら¹⁰⁾の結果と比較するのは困難であろう。

住居年数と子育て不安の関係には有意差が認められ、居住年数が長くなるほど子育て不安は低くなっていた。また、近くに親族のいない人の方がかえって子育て不安が低くなっていた。後述するが子育て不安と関連のある相談者は夫であったことから、近隣の親族関係は子育て不安の軽減には直接関係がないと推察される。

近所づきあいや友人のつきあいを頻繁にしている母親ほど、子育て不安が低くなることが明らかになった。牧野⁴⁾や両角ら²¹⁾も、不安あり群の母親は近所づきあいの範囲が極めて狭いことを指摘していた。したがって、近所づきあいの回数や範囲についての指導は、子育て不安を除くための最も重要な指導となることを強調したい。

子育て不安と父親の子育て参加との間には有意差は認められなかった。しかし、夫の精神的支えがあるほど子育て不安が低くなっていた。牧野ら⁶⁾は、父親の生活や意識が育児不安に直接関連はしない。しかし、母親の満足度などに影響を与え、間接的に育児不安に影響を与えると指摘していた。また、中村ら²²⁾も父親の育児参加の度合いが、母親の主観的健康観、母親の就労感、子どもの数及び父親の精神的支えに影響を与えることを明らかにした。さらに、住田²³⁾らは、夫婦相互のコミュニケーションを高く評価している場合は、父親の育児参加の如何にかかわらず、母親の満足度は高く、育児不安が低

くなることを指摘した。以上のことから、子育て不安を軽減するためには、父親の子育て参加もさることながら、母親の満足度を高めるためには夫の精神的支えが必要であることを明らかにした。

子育ての悩みの相談相手として夫をあげている母親が最も多かった¹⁸⁾。相談相手として夫をあげる母親は子育て不安も低くなっていた。しかし、他の相談相手と子育て不安との関連性は認められなかった。夫が子育ての悩みの相談相手になってくれることは、夫婦の間にコミュニケーションが存在すること、また夫が精神的な支えになっていることを示唆している。すでに述べたように夫が精神的支えになっていると答えた母親は子育て不安が低くなっていた。以上のことから夫が子育ての悩みの相談相手になることによって母親の精神的支えになることが極めて重要である。

子育ての知識や情報源として、自分の父母や夫の父母をあげている母親の子育て不安が低くなっていた。先にも述べたように近所づきあいや友人づきあいの頻繁な人ほど子育て不安は低くなっていた。また、子育ての知識や情報源として友人や近所の知人をあげている母親も多かった¹⁸⁾。しかし、子育ての情報源として友人や近所の人をあげている母親と子育て不安の間には有意な関連性は認められなかった。従って、子育て不安の軽減につながる知識や情報は、子育て経験者である身近で親密感の強い自分の父母や夫の父母から得た知識や情報であることが推測される。

参加している子育てサークルやグループが多い母親ほど子育て不安が低くなっていた。牧野の調査⁴⁾でも、学習や地域活動などに参加するために外にでる機会の多い人ほど、子育て不安が低くなっていた。本調査結果を併せて検討すると、母親が地域の子育てサークルやグループに参加できるような具体的な方法を検討していく必要がある。

3-2 子育て観と子育て不安

三歳児神話の考え方や子育て協働意識については、子育て不安との関連性はなかったが、性別役割分業について同感しない母親ほど子育て不安が高くなっていた。依然として地域や家庭において性別役割分業意識が強く、この考え方に同感できない母親ほど葛藤を感じることも多い。その結果として子育て不安が高くなったものと思われる。

牧野⁴⁾の調査では、「子育て以外にも何かをやらねばならない」と感じている母親が90%存在した。また、「子どもから離れてやりたいことができていると感じる」母親ほど育児不安が低いことが明らかになった。本調査の結果も併せて考えると、性的役

割分業に同感してない母親は、子育て以外に何かをやりたいと思っている。しかし、子どもと離れてやりたいことがなかなかできず、不安やストレスを感じているものと考えられる。

3-3 母親クラブ活動効果と子育て不安

母親クラブの入会期間や行事の参加数と子育て不安との関連性は認められなかった。しかし母親クラブに親しい友人がたくさんいるほど、また母親クラブ活動に満足しているほど子育て不安は低くなっていた。子育て不安と母親クラブ活動効果の間に関連性が認められた活動は、①子どもの友達が増える活動、②子どもの関わり方・遊び方がわかる活動、③子育てにゆとりのできる活動、④ボランティア活動として充実感を感じられる活動、⑤地域の子どもや母親とのかかわりが深まる活動であった。これらの活動を通して子育て不安を低下させていることが明らかになった。従って、母親クラブ活動に携わる母親たちが、今後このような活動をいかに活性化させるかが重要な課題となってくる。

母親クラブが父親に与える効果と子育て不安との関連性は認められなかった。本調査においては、母親クラブへの父親の参加は極めて少なく、評価も低かったため、子育て不安との関連性は認められなかったものと推察される。しかし、先にも述べたように、父親の子育て参加や精神的支えは母親の子育て不安の軽減に影響を及ぼす。父親が母親クラブに参加できる機会や行事を工夫していくことが喫緊の課題である。

ま と め

母親クラブの母親の子育て不安の程度と子育て環境、子育て観、母親クラブの活動との関連性を検討してきたが、この結果及び考察を踏まえ、今後の母親クラブの課題について述べる。

(1) 子どもの年齢に対応した母親クラブ活動の必要性

多くの母親は子どもと一緒にいると楽しいと思っている。しかし、一方で子育てについて心配や不安

を抱いている。また、子育て不安の内容は、子どもの年齢により異なる。従って、子どもの年齢によって母親クラブの活動内容を工夫することが必要である。

(2) 子育てネットワークを広げる母親クラブ活動

近所の人や友人とのつきあいのある人、また、子育てグループ・サークルに参加している人ほど子育て不安が低くなっている。そこで今後、児童館・児童センターを拠点として活動を行っている母親クラブは、子育てネットワークを拡大していくことが重要な課題となってくる。

(3) 父親が参加できる母親クラブ活動の重要性

母親クラブ活動の子どもや母親自身に対する効果については、多くの母親が高く評価しているが、父親に対する効果については評価が低い。しかし、子育て不安の軽減には夫の子育て参加や精神的支えが必要である。今後、父親が母親クラブに参加する機会を増やし、父親の母親クラブに対する理解を深めることが重要である。

(4) 子育て不安を軽減する母親クラブ活動

母親クラブ活動と子育て不安の関係は、入会期間の長さや行事の参加数よりも、母親クラブ活動にどれだけ満足しているかということに関連がある。したがって、子育て不安を軽減につながるような母親クラブ活動、例えば友人と話しができ、子どもの友達が増えるような活動を展開することが求められる。

本稿を終えるにあたり、アンケート調査にご協力いただいた倉敷市母親クラブ連絡協議会会長・難波夏子様、倉敷児童館館長・杉周子様、倉敷市児童館・児童センターの職員の皆様、母親クラブの会員の皆様に感謝いたします。本研究をまとめるにあたり、川崎医療福祉大学医療福祉学科小河孝則助教授にご助言を受け賜りました。また、統計処理をするにあたり川崎医療福祉大学医療福祉学科前川明美さんのご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。なお、この研究は平成11年度川崎医療福祉大学プロジェクト研究費の助成を受けて行い、要旨は第8回川崎医療福祉大学プロジェクト研究報告会において発表した。

文 献

- 1) 佐藤紀子：子育てする女性の心と体を支えるために。こども未来,(341),7-9,2000。
- 2) 厚生省監修：厚生白書(平成10年版),初版,ぎょうせい,東京,82-91,1998。
- 3) 牧野カツコ：育児における<不安>について。家庭教育研究所紀要,(2),41-51,1981
- 4) 牧野カツコ：乳幼児をもつ母親の生活と<育児不安>。家庭教育研究所紀要,(3)34-56,1982。
- 5) 牧野カツコ：働く母親と育児不安。家庭教育研究所紀要,(4).67-77,1983。
- 6) 牧野カツコ,中西雪夫：乳幼児をもつ母親の育児不安—父親の生活および意識との関連—。家庭教育研究所紀要,(6),11-24,1985。

- 7) 牧野カツコ：乳幼児をもつ母親の学習活動への参加と育児不安．家庭教育研究所紀要 ,(9), 1-13 , 1987 .
- 8) 牧野カツコ：＜育児不安＞の概念とその影響について再検討．家庭教育研究所紀要 ,(10), 23-31 , 1988 .
- 9) 服部祥子, 原田正文：乳幼児の心身発達と環境—大阪レポートと精神医学的視点—, 初版, 名古屋大学出版, 名古屋, 201-213 , 1991 .
- 10) 佐々木正美：育児不安の解消は, 孤独・孤立の解消から．こどもの未来 ,(303), 12-14 , 1996 .
- 11) 川井尚, 庄司順一他：育児不安に関する基礎的検討．日本愛育研究所紀要 ,(30), 27-39 , 1994 .
- 12) 川井尚, 庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究—幼児の母親を中心に—．日本愛育研究所紀要 ,(31), 27-42 , 1995 .
- 13) 川井尚, 庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究 II—育児不安の本態としての育児困難感について—．日本愛育研究所紀要 ,(32), 29-47 , 1996 .
- 14) 川井尚, 庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究 III—育児困難感のアセスメント作成の試みに—．日本愛育研究所紀要 ,(33), 35-56 , 1997 .
- 15) 川井尚, 庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究 IV—育児困難感のプロフィール評定試案—．日本子ども家庭総合研究所紀要 ,(34), 93-111 , 1998 .
- 16) 川井尚, 庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究 V—育児困難感のプロフィール評定質問紙の作成—．日本子ども家庭総合研究所紀要 ,(35), 109-143 , 1999 .
- 17) 川井尚, 庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究 VI—子ども総研式・育児支援質問紙(試案) の臨床的有用性に関する研究．日本子ども家庭総合研究所紀要 ,(36), 117-138 , 2000 .
- 18) 八重樫牧子：母親クラブ活動調査からみた子育て支援に及ぼす母親クラブの役割と課題．川崎医療福祉学会誌 , 12(1), 23-40 , 2002 .
- 19) 子ども未来財団：子育てに関する意識調査事業の概要．こどもの未来 ,(362), 6-12 , 2001 .
- 20) 経済企画庁国民生活局編：平成 9 年度国民生活選好度調査, 初版, 大蔵省印刷局, 東京, 47-48 . 1998 .
- 21) 両角伊都子, 角間陽子, 草野篤子：乳幼児をもつ母親の育児不安に関わる諸要因—子どもの虐待をも視野に入れて—．信州大学教育学紀要 ,(99), 87-98 , 2000 .
- 22) 中村裕美子編：育児グループにおける地域組織活動効果の測定指標に関する研究, 初版, 岡山市, 31-91 , 2000 .
- 23) 住田正樹, 中田周作：父親の育児態度と母親の育児不安．九州大学大学院教育学研究紀要 ,(2), 19-38 , 1999 .

(平成14年 5月31日受理)

An analysis of the relationship between the good effect on mother's anxiety about bringing up children and their participation in a Mother's Club

Makiko YAEGASHI

(Accepted May 31, 2002)

Key words : MOTHER'S CLUBS, ANXIETIES ABOUT CHILD REARING, CHILD CARE SUPPORT,
FEWER NUMBER OF CHILDREN, CHILDREN'S HALLS

Abstract

The development of urbanization, increasing nuclear families and decreasing numbers of children in those nuclear families has led to isolated families and also to weakened functions of bringing up children in families and in each community around them. As a result, mothers tend to be much more anxious about bringing up their children. They see it as an obligation or a burden. To reduce these mothers' anxieties and problems, both of the fathers' participation in bringing up children in their families and active supporting networks, e.g. mothers' clubs, in the communities are strongly needed.

The purpose of this study is to clarify the relation between the levels of the activities of Mothers' Clubs and the effects on mothers' anxieties for bringing up their children. By means of a questionnaire-survey, 402 mothers' views of the clubs' activities in the community were surveyed.

As a result, some ideas to solve the problems in the future may be proposed. First, the activities of Mothers' Clubs require that they are suitable for children's age, because the nature of mother's anxiety depends on their children's age. Second, we need to develop the activities to build a network for bringing up children, because mothers, who exchange views with friends and neighbors, have less anxieties. Then, we need to increase the chances for husbands to join the Mothers' Clubs' activities. Mothers need their husbands' support in bringing up their children. Lastly, it is necessary to improve the activities, because mothers, who feel satisfaction by taking part in it, have less anxieties.

Correspondence to : Makiko YAEGASHI Department of Medical Social Work, Faculty of Medical Social Work
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki , 701-0193, Japan
(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.12, No.1, 2002 45-57)